

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和 8年 1月29日

協議会名: 熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
国際十王交通株式会社	コミュニティバス江南地区路線「ほたる号」 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行回数】1日4.5往復 【運行ルート】江南行政センター～熊谷駅南口～江南行政センター 【運行車両】ノンステップバス1台 【運賃】(1)1回の運賃200円※小児100円(2)1日乗車券500円(3)回数券(10枚綴り)2,000円(4)スマホ回数券(10枚綴り)1,500円(5)運賃の免除について 未就学児、障害者手帳(3種)所持者及びその介助・付添人1人、運転免許自主返納者(無料乗車証か運転経歴証明書の提示)	・無料乗車デーを実施し、普段利用していない層への利用促進を図った。 ・バスマップの増刷、配布場所の拡大により周知に努めた。 ・キャッシュレス決済であるスマホ回数券の対応券種を拡大し、利便性の向上を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 【年間利用者数】 (R6.10.1～R7.9.30) 《目標》:24,810人 《実績》:18,970人 《分析》:R6.4.1からのダイヤ改正(減便)によるものと考ええる。 ※スマホ回数券の利用者は増加傾向。 【公共交通に満足している当該エリア住民の割合】 (R7.2時点市民アンケート調査) 《目標》:45%以上 《実績》:33% 《分析》:R6.4.1からのダイヤ改正(減便)によるものと考ええる。	・運転士不足が深刻となる中、路線及び運行本数の維持に努める。 ・利便性向上のため、待合空間の充実、機能強化及びスマホ回数券の機能拡大を目指す。 ・バスの運行ルート、停留所等について、バスロケーションシステムやGTFS形式などのオープンデータ、Googleマップ等で公開しているが、さらなる周知、利用促進のため、市の様々な情報の閲覧が可能な公開型GISでの公開を目指す。

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>・普段利用していない層への利用促進のために、無料乗車デーを実施したことは評価できる。</p> <p>・無料乗車デーについて、必要に応じてコミュニティバス以外の地域公共交通でも無料で利用可能とすることによって、地域全体の公共交通について、実際の乗車体験を踏まえた双方向のコミュニケーションと事業の改善に役立てることに期待したい。</p> <p>・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。</p>
--	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月29日

協議会名: 行田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
朝日自動車(株)	<p>【市内循環バスの運行】</p> <p>・西循環コース(往復とも7.2km) 運行回数: 平日26便、土日祝12便 運賃: 200円</p> <p>・南大通り線コース(12.6km) 運行回数: 平日36便、土日祝22便 運賃: 200円</p>	令和7年度から新規指定のため、前回の事業評価結果なし	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<p>【目標と実績】</p> <p>①公共交通の年間利用者数 目標値 380万人 実績値 411万人【達成】 ※実績値は令和6年4月～翌3月で集計</p> <p>②市内循環バスの収支率 目標値 16.1%以上 実績値 23.8%【達成】</p> <p>③観光拠点循環コースの利用者数2%増 目標値 28,208人 実績値 32,676人【達成】</p>	公共交通再編の内容を踏まえて、公共交通ネットワークが一目でわかる公共交通マップを作成し、公共交通利用者数の維持に引き続き取り組む。 本年1月より導入したバスロケーションシステムの利用方法を周知し、市内循環バス利用者の利便性向上を図ることで、市内循環バスの利用者数の増加に繋げる。
(株)大堰観光バス	<p>【市内循環バスの運行】</p> <p>環境拠点循環コース(17.2km) 運行回数: 平日・土日祝ともに9便 運賃: 200円 (車両減価償却費等国庫補助金申請系統)</p>			<p>【分析】</p> <p>①公共交通の年間利用者数は、鉄道利用者のコロナ減からの回復の影響が大きかった。</p> <p>②市内循環バスの収支率は、令和7年3月末で利用者の少ない3路線の運行を終了し、運行を継続する3路線では運賃改定を行い、収支率が改善した。</p> <p>③観光拠点循環コースの利用者数は、新車両へのキャッシュレス決済の導入による利便性向上や、夏季の観光需要が盛況であったことにより、利用者数が増加した。</p>	

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>・新車両へのキャッシュレス決済の導入に取り組まれ、観光拠点循環コースの利用者数の目標を達成されたことを評価する。 引き続き、利便性向上を図り、利用者数の増加に努められることを期待する。</p> <p>・収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。</p>
---------------------------------	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名:	飯能市地域公共交通対策協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西武ハイヤー株式会社	飯能市乗合ワゴン「おでかけ むーま号」(精明・加治地区) 系統:3系統(精明東系統・精明 西系統・加治系統) 運行日:月・水・金 運賃:一律200円 車両:10人乗りワゴン(定員9人)	今後利用者となるうる住民等 を利用につなぐ取組として、市内 転入者に向けて公共交通マッ プを配付し、当事業及び公共交 通全体の利用促進を行った。こ の結果、区画整理事業の進捗 により運行経路の周辺人口が 増加傾向にある加治系統の利 用者数が昨年より延びている。 また、運行地域周辺住民に向 けて利用状況を毎月示すこと で、目標と達成度を自分事化で きる仕組みを作っている。	A 事業が計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	C 目標① 1便当たり平均利用者数 (全系統合計) 目標値 5人以上 実績値 4.41人【未達】 目標② 収支率(経常経費に対す る経常収入の割合) 目標値 20%以上 実績値 14.42%【未達】 目標達成には至らないものの、前 年値①4.00人、②13.42%と比較す ると達成に近づいており、本格運行 開始から3年経過したことで地域に 浸透し、住民にとって必要不可欠 な移動手段となっている。	目標値については①②どちらも 未達となったが、利用者数は増 加傾向にあるため、引き続き新 規利用者の取り込みを行う。収 支率については燃料費等の高 騰により経常費用が増大し、運 賃収入を増やすだけでは達成 が難しいため、広告収入等の収 入確保により目標達成を目指す とともに、次期計画策定時の目 標についても検討していく。
国際興業株式会社	飯能市乗合ワゴン「おでかけ むーま号」(原市場地区) 系統:①飯能駅便(2系統)・②原 市場地区行政センター便(2系 統)・③新寺便(2系統) 運行日: ①③毎日、②月・水・金 運賃: ①対キロ運賃、②一律300円、③ 一律100円 車両: ①大型バス、②③14人乗りワゴ ン(定員12人)	本格運行開始から1年間の利 用状況や利用者の要望等を反 映し、10月1日より増便及び時 刻の変更を伴う運行内容の変 更を行った。また、一部のス クールバスを乗合ワゴンと統合 して運行し、市内公共交通網と の調整を図りながら利便性の 向上を目指した。	A 事業が計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	C 目標 1便当たりの利用者数 目標値 4人以上(片道) 実績値 3.51人【未達】 依然として通勤・通学の需要が高 く、朝は定員の多い大型バスでの 運行が必須となっているものの、夕 方以降は家族等による自家用車で の迎えにより、下りの利用者が減っ ていると考えられる。運行内容変更 により利用者数は増えているもの の、運行回数も増えているため、1 便当たりの実績が下がってしまった。	利便性の向上を目的として運行 回数を増やしたが、利用者の少 ない時間帯があることを踏ま え、今後も利用状況や利用者の 意見を反映し、より地域の実情 にあった運行をしていく。
	飯能市乗合ワゴン「おでかけ むーま号」(南高麗地区) 系統:①小学校便・②南高麗地 区行政センター便(2系統) 運行日:①月～金、②月・水・金 運賃:一律300円 車両:14人乗りワゴン(定員12 人)	本格運行開始から1年間の利 用状況や利用者の要望等を反 映し、10月1日より時刻の変更 を伴う運行内容の変更を行っ た。また、地区内の介護保険施設と 協力し、週に1回乗合ワゴンの 空白時間帯に無償で移送サー ビスを提供し、より移動しやす い交通体系を整備している。	A 事業が計画に位置づけられた とおり、適切に実施された。	C 目標 1便当たりの利用者数 目標値 3.5人以上(片道) 実績値 3.10人【未達】 目標の達成には至らないものの、 前年値2.74人と比較すると利用者 が増加しており、運行内容の変更 が影響したと考えられる。スクール バスの役割を兼ねていることから 一定数利用は見込まれるものの、 地域住民に向けた利用促進策に 取組む必要がある。	地区内に若い世代の転入が見 られることから、新規利用者の 獲得に向けた施策を検討する。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	一部のスクールバスを乗合ワゴンと統合して運行することや地区内の介護保険施設と協力し、週に1回乗合ワゴンの空白時間帯に無償で移送サービスを提供し、より移動しやす い交通体系を整備するなど持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組まれたことを評価する。 将来にわたって公共交通の利用者となり得る子ども・若者世代の公共交通利用を促進し、公共交通を利用する習慣の形成につなげることを期待したい。 生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 加須市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名:朝日自動車(株)	シャトルバス かぞ絆号 系統:新古河駅西口～済生会 加須病院 運行日:月曜～土曜 運行回数:8便/日 運賃:200円	・シャトルバスの利用促進を図るため、一定期間(R7.3.15～R7.3.22)の利用料金を無料とすることで、シャトルバスを利用しようとするきっかけづくりを行った。 ・乗降調査を前年度に引き続き、令和6年10月、11月の3日間実施し、利用実態の把握と利用者の意見を伺った。シャトルバスは、主に鉄道駅、道の駅、公共施設への移動手段であることが確認できた。 ・コミュニティバスの運行等の見直しについて、運行事業者と協議を継続している。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・市の北部から南部までを結ぶシャトルバスの運行により、市内の鉄道間の連携及び市の一体性が図られている。 ・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。	C 令和7年度の1日平均利用者は15.2人であり、前年度の15.6人から微減し、目標である30人に対する達成割合は50.7%であった。	コミュニティバスの運行改善シミュレーション分析、市民ニーズや利用状況を分析の上、運行経路やバス停留所の見直しについて検証し、市民ニーズに合わせたシャトルバスのあり方について運行事業者との協議を進める。
事業者名:朝日自動車(株)、加須タクシー(株)、騎西タクシー(有)	デマンド型乗合タクシー かぞ絆号 運行区域:加須市全域及び久喜市内栗橋駅西口 運行日:月曜～土曜 運行回数:10便/日 運行時間帯:7時～18時 運賃:300円	・デマンド型乗合タクシーの更なる周知のため、引き続き市ホームページ(https://www.city.kazo.lg.jp/so-shiki/seisaku_chousei/koutsuu/4889.html)において情報掲載を行った。 ・利用促進のため、自治協力団体の集会等に出向き、デマンド型乗合タクシーの利用登録会を実施した。 ・コミュニティバスの運行改善シミュレーション委託の結果を基に、運行等の見直しについて、運行事業者と協議を継続している。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・市全域等におけるデマンド型乗合タクシーの運行により、交通弱者の移動手段の確保や公共交通不便地域の解消が図られている。 ・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。	B 令和7年9月末時点での利用登録者数は、19,960人であり、前年度の18,639人より増加し、目標である18,500人を達成した。 令和7年度の1日平均利用者は127.2人であり、前年度の126.1人よりも増加したが、目標である160人に対する達成割合は79.5%であった。	コミュニティバスの運行改善シミュレーション分析、市民ニーズや利用状況を分析の上、運行方法等の見直しについて、より利用しやすいデマンド型乗合タクシーの運行改善に向けて運行事業者との協議を進める。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

シャトルバスの一定期間の利用料金無料及び前年度に引き続き乗降調査や利用登録会を実施しているなど、利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることは評価できる。
引き続き、利便性向上を図り、必要に応じた改善に努められることを期待する。
利用料金無料について、必要に応じてシャトルバス以外の地域公共交通でも一定期間、無料で利用可能とすることによって、地域全体の公共交通について、実際の乗車体験を踏まえた双方向のコミュニケーションと事業の改善に役立てることに期待したい。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 本庄市交通政策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
朝日自動車(株)	R6.10～R7.2 デマンド型交通「はにぼん号」 営業区域:本庄北地域・1台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～17時 運賃:300円	令和7年3月にAIオンデマンド型交通システムを導入するとともに、コールセンター機能の充実や営業区域の統合、営業時間の拡大、ワゴン型車両への統一化、キャッシュレス決済の導入など、利便性を向上させる取組によって、利用者数は目標値を大きく上回った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 目標①利用者数:10,711人 実績:11,165人 分析:AIオンデマンド型交通システムの導入や営業区域の統合などの見直しにより、利用者数は増加している。 目標②予約不成立件数:900件 実績:641件 分析:AIオンデマンド型交通システムの導入等によって利便性が向上し、合わせて乗合率も向上したことによって、予約不成立件数は、目標を達成した(昨年度比▲59件)。本庄地域では、利用者数が急増しているため、予約が取りづらい状況があり、予約不成立件数の増加要因が潜んでいるものと考えられる。 目標③収支率:5.8%以上 実績:7.8% 分析:利用者数の増加に加え、運賃の見直し(値上げ)を実施したため、収支率は改善している。	はにぼん号全体の利用者数は目標を達成したが、児玉地域の利用者数が伸び悩んでいる状況なので、児玉地域住民に対して、はにぼん号の認知度を向上させ、新規利用者を発掘するなど、児玉地域はにぼん号の利用者を増加させる取組みが必要である。
	R6.10～R7.2 デマンド型交通「はにぼん号」 営業区域:本庄南地域・1台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～17時 運賃:300円				
	R6.10～R7.2 デマンド型交通「はにぼん号」 営業区域:児玉市街地・1台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～17時 運賃:300円				
	R6.10～R7.2 デマンド型交通「もといずみ号」 営業区域:児玉山間地域・1台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～17時 運賃:300円				
	R7.3 デマンド型交通「はにぼん号」 営業区域:本庄/児玉地域・各2台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～17時 運賃:400円				
	R7.4～9 デマンド型交通「はにぼん号」 営業区域:児玉地域・1台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～17時 運賃:400円				

本庄タクシー(株)	R7.4～9 デマンド型交通「はにぼん号」 営業区域:本庄地域・2台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～17時、8～18時 運賃:400円		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		
	R7.4～9 デマンド型交通「はにぼん号」 営業区域:児玉地域・1台 運行日:月曜日～土曜日 運行時間帯:8～18時 運賃:400円					
本庄観光(株)	R6.10～R7.3 本庄シャトル便「はにぼんシャトル」 系統:本庄駅南口～本庄早稲田駅北口(3km) 運行回数:13. 5回/日 運賃:200円	はにぼんシャトルの時刻表の定期的な見直しについては、アンケート調査において、定期的な見直しは約6割が希望している状況であるが、その見直し時期や見直し方法の設問では様々な意見があるために、見直しは見送り、今後も、アンケート調査など利用者ニーズの把握に努めるとともに、利便性の向上に取り組むこととする。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	<p>事業が計画に位置付けられた目標をほぼ達成した。</p> <p>目標①利用者数:10,426人 実績:14,800人 分析:公園イベントなどと連携してバス利用の促進を図ることに加え、マリーゴールドの花のラッピングやキャッシュレス決済の導入など認知度や利便性の向上に努めたことによる。</p> <p>目標②収支率:18.1%以上 実績:17.1% 分析:利用者数の増加により、営業収益は増加したが、物価高騰等に伴って、それ以上の営業費用の増加によって、収支率目標の達成には、少し届かなかった。</p> <p>はにぼんシャトル利用者が目標を大きく上回る実績だったが、一方で、定員超過に伴って乗車できない利用者が見受けられるので、その対応を調査研究する必要がある。</p>
庄和観光バス(株)	R7.4～R7.9 本庄シャトル便「はにぼんシャトル」 系統:本庄駅南口～本庄早稲田駅北口(3km) 運行回数:13. 5回/日 運賃:200円		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>利便性を向上させるため、AIオンデマンド型交通システムを導入、コールセンター機能の充実、営業区域の統合、営業時間の拡大、ワゴン型車両への統一化やキャッシュレス決済の導入などに取り組まれ、利用者数の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。</p>
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月23日

協議会名： 深谷市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
花園観光バス(株)	【R6.10.1～R7.3.31】 北部シャトル便 ① 深谷駅北口ー深谷警察署 (西)、大寄公民館ー渋沢栄一記念 館ー旧渋沢邸「中の家」 ② 深谷駅北口ー新井郵便局前、 福寿荘前ー新戒 (車両減価償却費等国庫補助金申 請系統)	・市民アンケート、公共交通利 用者ヒアリング調査の実施 ・深谷市地域公共交通計画の 進行管理 ・深谷市コミュニティバス「くるり ん」再編計画の進行管理 ・深谷市コミュニティバス「くるり ん」デマンドバス再編計画の進 行管理	A	計画どおり事業は適切に実 施された。	◎各目標値は「深谷市地域公共 交通計画」において設定されてい る数値を参考にしています。 【目標1:利用者数の増加】 (目標)51,382人 (実績)50,441人 ※昨年度実績 51,646人 【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)54.8% (実績)70.7% ※利用者アンケートの結果 【目標3:収支率の向上】 (目標)12.3% (実績)10.9% ※昨年度実績 9.3% 利用者数及び収支率は目標を達 成することができなかったが、収 支率については昨年度より改善 が見られており、良い方向に推移 している。 利用者数については、R7.4に実施 した北部シャトル便の運行再編の 影響により一時的に利用者離れ が発生していると考えられる。
深谷タクシー(有)	【R6.10.1～R7.9.30】 北部デマンド 西部デマンド		A	計画どおり事業は適切に実 施された。	
深谷観光バス(株)	【R7.4.1～R7.9.30】 北部シャトル便＋周遊便 ①深谷駅北口ー深谷市民文化会 館前、大寄公民館ー渋沢栄一記念 館ー旧渋沢邸「中の家」 ②深谷駅北口ー深谷中央病院前、 新井郵便局ー深谷大里看護専門 学校 ③深谷駅北口ー旧渋沢邸「中の 家」、深谷大里看護専門学校ー深 谷駅北口(循環型)		A	計画どおり事業は適切に実 施された。	
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	市民アンケートや公共交通利用者ヒアリング調査を実施し、利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることを評価する。 引き続き、利便性向上を図り、利用者数の増加に努められることを期待する。 収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストで あるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月21日

協議会名: 幸手市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
中田商会株式会社	コミュニティバス 「幸手市市内循環バス」 系統: 中央コース(11.6km) 東Aコース(20.6km) 東Bコース(17.8km) 西Aコース(18km) 西Bコース(12.4km) 運行回数: (中央)8便/日 (東A・東B・西A・西B) 各4便/日 運賃: 1乗車(大人)200円 ※1日乗車券、割引運賃あり	「引き続き、利便性の向上を図り、現行のコース設定の見直しや検討を行い改善に努められたい」との評価を受け、増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支える足となる公共交通網を確保するという目的のもと、目標達成に向けて市内循環バスの利用者増を図るため、下記のとおり取組を実施した。 ①ナビタイム、ジョルダンにおける市内循環バスのインターネット検索環境の提供 ②民間路線バスとの乗継円滑化を図るため、停留所相互への案内表示 ③1日乗車券を利用した杉戸町町内巡回バスとの相互乗換の実施 ④期間中(R6.12.16～12.21)はどなたでも無料で乗ることができる、市内循環バス無料乗車キャンペーン(乗り乗りWeek)の実施 ⑤市民検討会の開催	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【令和7年度目標1:年間利用者数】 (目標)26,692人 (実績)31,533人 【令和7年度目標2:利用者1人当たりの市負担額】 (目標)1,539.5円 (実績)1,302.6円 令和7年度は、無料乗車キャンペーンや市民まつりでの車両展示などを実施し、促進の取組を行った結果、増加基調を維持し、目標を達成することができたものと考えている。 引き続き、一人でも多くの市民に循環バスを利用していただくことで、市民の通院や買い物等の日常生活を支える移動手段を確保するという役割は果たしていく。	東西コースの利用者数の伸び悩みは依然として課題となっている。 令和8年度事業では、市民まつりにおいて、循環バス車両の展示を実施し循環バスの更なる周知、利用促進の取組を継続している。 また、利用実績、市民アンケートや市民検討会の意見を踏まえ、市内循環バスの再編を行っている。利用ニーズの高い中央コースについては利便性を向上させ、利用者数の増加を図る。利用ニーズが低い東西コースについては、運行形態を変更しAIデマンド交通を導入し、地域の特性に合わせた運行を目指す。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

・利用促進のため、無料乗車キャンペーンや市民まつりでの車両展示などに取り組み、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。
・コミュニティバスの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。
・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月28日

協議会名: 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和タクシー有限会社	<p>【デマンド交通「のりあい交通」】</p> <p>事業者名:昭和タクシー</p> <p>運行区域:白岡市内及び蓮田病院</p> <p>運行日:月曜～土曜(祝日、年末年始運休)</p> <p>運行時間帯:8時30分～17時30分</p> <p>運行本数:9便/日</p> <p>運行車両:セダン型車両</p> <p>運賃:500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)</p>	<p>・二十歳のつどい式典において、参加者へのりあい交通を紹介したチラシを配布するとともに、市公式ホームページや窓口等において通年で周知啓発を図った。</p> <p>・白岡ふるさと祭りにおいて、のりあい交通を紹介した啓発品の配布を行った。</p> <p>・市民ニーズに対応するため、目的地を随時追加した。</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できない点があった。</p> <p>【目標】</p> <p>①1日当たりの利用者数 目標:50人</p> <p>②のりあい交通収支率 目標:20%</p> <p>③高齢者の外出頻度(週3回以上) 目標:75%</p> <p>【実績】</p> <p>①1日当たりの利用者数61.6人</p> <p>②収支率11.3%</p> <p>③令和10年度の白岡市地域公共交通計画改訂の際に検証予定</p> <p>【分析】</p> <p>令和6年9月までは午前3台、午後2台の運行体制だったが、10月から終日4台体制となったことから、利用者数が大幅に増えた半面、委託費用も増加し、収支率は低下している。午後の時間が進むにつれ利用者が減少している。病院や買い物での利用が多く午前中に外出する人が多いものと考えられる。午後便の利用者を増やし、収支率の改善を図る必要がある。</p>	<p>午前中は利用者が多くいる一方で、午後の便は予約が埋まらない時間帯があるなど、利用時間の偏在が継続的な課題の一つとなっている。</p> <p>また、のりあい交通の周知と利用促進を図るため、市広報紙等での案内や、イベント等でのPR活動を実施し、幅広い市民に向けた周知を行う。</p> <p>引き続き、市民ニーズを的確に把握し、目的地を追加するなど、利用者にとってより利便性の高いものにしていく。</p>
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>二十歳のつどい式典においてのりあい交通を紹介したチラシを配布するとともに、市公式ホームページや窓口等において通年で周知啓発に取り組みられ、一日あたりの利用者数の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>将来にわたって公共交通の利用者となり得る子ども・若者世代の公共交通利用を促進し、公共交通を利用する習慣の形成につなげることを期待したい。</p> <p>生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。</p>				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月15日

協議会名： 毛呂山町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社越生タクシー	<p>①毛呂山町コミュニティバス(もろバス)「ゆず号1コース」 系統1: 役場～鎌北湖・図書館～役場(20.3km) 系統2: 役場～鎌北湖～役場(17.8km) 運行回数: 系統1 4回/1日 : 系統2 1回/1日</p> <p>②毛呂山町コミュニティバス(もろバス)「ゆず号2コース」 系統1: 役場～もろびとの館・図書館～役場(12.2km) 系統2: 役場～もろびとの館～役場(9.5km) 運行回数: 系統1 3回/1日 : 系統2 1回/1日 運賃: 100円</p>	住民アンケート調査等の各種調査や過去のもろバスの運行実績、地域状況等から分析した公共交通課題に対応するため、地域公共交通のマスタープランとなる「毛呂山町地域公共交通計画」を令和6年3月に策定した。特にアンケートで要望の多かった、もろバスの利便性向上について、運行車両を3台から5台に増車することで、運行頻度の増加や往復運行の実施など、利便性を向上することができた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を全て達成することができた 【目標】 ①利用者数 85人/1日 ②往復利用者割合 74% ③利用者満足度 48% 【実績】 ①利用者数 100.4人/1日 ②往復利用者割合 75.8% ③利用者満足度 60.2% ※1 ①は運行実績、②③はもろバス利用者アンケート(n=133)より集計 【分析】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う生活様式の変化の影響により、令和2年度から利用者数の減少が続いていたが、令和7年4月1日に実施した運行見直しにより、利用者数は増加に転じた(対前年度比116.2%)。また、往復利用者の割合は75.8%となり、利用者数と同様に今年度の目標を達成した。さらに、利用者満足度(もろバス利用者アンケートで「大変満足」「満足」と回答した人の割合)も60.2%となり、前年度の37.8%から大きく改善した。これらの結果から、運行見直しの実施により、もろバス全体の利便性が大きく改善され、全て目標を達成できたものと分析する。	令和4年度に実施した町民アンケート及び高齢者アンケートなどの調査結果から、もろバスの運行頻度に不満を持つ方が多いことが確認された。これらの課題に対応するため、令和7年4月1日にもろバスの運行見直しを実施した。見直しにより、運行車両の増車による運行頻度の向上に加え、往復コースを中心とした運行ルートの変更を行った結果、利便性が大きく改善した。これらの取組により、全ての目標を達成できたものと評価する。今後もより良い公共交通となるよう、運転経歴証明書の提示による無料期間の延長など、利便性の向上につながる取組を実施していきたい。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利便性の向上のために、アンケートで要望の多かった、もろバスの利便性向上について、運行車両を3台から5台に増車することで、運行頻度の増加や往復運行を実施するなど路線再編に取り組まれ、一日の利用者数の目標を達成されたことを評価する。 生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月29日

協議会名: 鳩山町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社越生タクシー	<p>デマンド型交通「はとタク」</p> <p>●営業区域: 鳩山町全域+町外乗降所(毛呂山町埼玉医大・坂戸市につき商業施設3箇所・北坂戸1箇所)</p> <p>●運行日: 毛呂山町埼玉医大行きは日曜、祝日及び年末年始を除く月曜～土曜</p> <p>●運行時間帯: 埼玉医大行きは7時～、その他は8時～17時</p> <p>●運賃: 町内200円、坂戸市につき300円、北坂戸600円、毛呂山町埼玉医大600円</p>	<p>●「特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認していただきたい」との評価結果を受け、交通システムにてデマンドタクシーの延べ乗車人数のほか、利用登録者数及び月利用者数(ユニークユーザー数)等の利用状況を把握している。今後も特定少数の利用者に偏らず、利用していただくため、引き続き広報活動等を実施していく。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>●デマンドタクシー「はとタク」の利用者数 目標: 25,000人 実績: 24,676人 分析: 目標値である年間利用者25,000人に対して約98.7%(24,676人)の目標達成率となり、目標達成に至らなかったが、登録者数は着実に増加している。高齢者を中心とした自身で交通手段を有さない交通弱者の日々の通院・買い物等生活に密着した移動手段となっている。</p> <p>収支率 令和6年度: 15.99% 令和7年度: 16.01%</p>	<p>デマンドタクシー「はとタク」については、町民ニーズに即した公共交通実現のため、引き続きデマンドタクシーを運行するとともに、登録者数・利用者数の増加に向け、町ホームページ・窓口において情報提供を行う。利用者の利便性向上が図れる効果的なデマンド交通システムの運用を検討していく。 ・また、高齢者等のデジタルディバイド対策として、インターネット予約を活用していただくために、引き続き定期的にスマホ活用教室を開催する。</p>

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>利用登録者数及び月利用者数(ユニークユーザー数)等の利用状況を把握し、特定少数の利用者に偏らず利用していただくために引き続き広報活動等を実施するなど、利用促進、ニーズの取組を継続的に実施していることを評価する。引き続き、持続可能な公共交通ネットワークの構築に努められることを期待する。デマンド交通の利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。</p>
---------------------------------	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月26日

協議会名: ときがわ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社越生タクシー	<p>○デマンド型交通 「ときがわ町乗合タクシー」</p> <p>○区域運行 ○運行日:月曜～日曜 ○運行時間帯: 月曜～金曜 6:30～21:00 土曜 7:30～21:00 日曜、祝日 7:30～19:00</p> <p>○運賃(町内) 大人500円/1乗車 小人300円/1乗車</p> <p>○運賃(町外) ・埼玉医大 定期券未所持 大人1,000円/1乗車 小人 600円/1乗車 定期券所持 大人500円/1乗車 小人300円/1乗車 ・国際医療センター 定期券未所持 大人1,500円/1乗車 小人 900円/1乗車 定期券所持 大人1,000円/1乗車 小人 600円/1乗車</p>	稼働率30%の目標達成について評価していただき、今年度についても61.99%の稼働率となっており継続した運行が実施できていると考える。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 目標(令和10年度) ①延べ利用人数:17,000人に対して22,542人(R6.10～R7.9) ②町外登録者数:累計1,600人に対して1,861人(R7.9現在)となっており、計画を上回る結果となった。	担い手不足による運転士不足の問題がある。運行を安定して継続させることが今後の課題と考える。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>・昨年度から引き続き運行継続に取り組まれ、稼働率の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>・引き続き、持続可能な公共交通ネットワークの構築に努められることを期待する。</p> <p>・乗合タクシーの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。</p> <p>・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。</p>
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 小鹿野町地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
秩父丸通タクシー株式会社	<p>運行系統名:小鹿野伊豆沢長 若乗合タクシー</p> <p>小鹿野町の交通空白地域を 運行し、西武秩父駅及び秩父 駅から町内へ運行している西 武観光バス小鹿野線の複数の 停留所と接続し、さらに町営バ スとの接続や地域内の高齢 者、障害者を中心とした利用者 への利便性を図るものである。</p>	<p>前回の評価結果では、業務効 率の向上と利用者の利便性の 向上、更なる需要の喚起に努 めることとされた。両神地区の 乗降ポイントの追加や当日予 約の開始ができるように変更を 行い、利便性を向上させ、利用 者を増加することが出来た。ま た、77歳以上バス優待券申請 時や広報誌への掲載、シル バー学級など高齢者が集う場 所へ出向き乗合タクシーのPR を引き続き実施した。公共交 通空白地域等における運行範囲 の拡大については、町全域が 過疎地域に指定されており、交 通空白有償運送の活用ができ るため、令和8年度から倉尾地 区の運行区域を拡大する予定 である。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置づけられ た目標を達成出来なかった。</p> <p>【目標】 年間利用者数2,600人 登録者数15%増(約65人) 77歳以上登録者数15%増 (約68人) 【実績】年間利用者数3,481 人新規登録者数49人、うち7 7歳以上登録者28人 【分析】 年間利用者数は目標を上回 ることができたが、新規登録 者数は、目標値に達すること が出来なかった。特に令和6 年7月以降の利用者数の増 加は、下記の周知活動が結 果に結びついており、引き続 き定期的な広報掲載や老人 クラブ集会等に出向き広報活 動を実施し、利用者数及び登 録者の増加を目指していく。</p>	<p>【特記事項】 従来は、電話受付のみの体制 であったが、予約受付にAIシ ステムを導入したことで利用登 録者の管理や運行上のルート選 定、走行データの収集等、格段 に業務効率が向上した。また 利用者への時間案内もより正 確になった。 【今後の課題】 予約システムはスマートフォン からの予約にも対応している が、利用者は高齢者が多いた め申込みはほとんどが電話予 約である。一般利用者も着実 に増加しており、令和8年度か らは倉尾地区に運行区域を拡 大し2台体制とする予定であ る。今後は、利用者増に伴う車 両不足となった場合の車両、 運転手等速やかに確保できる か課題となると思われる。</p>
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>定期的な広報掲載や老人クラブ集会等に出向き広報活動に取り組まれ、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。 引き続き、利便性向上を図り、幅広い年齢層への周知に努められることを期待する。 乗合タクシーの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。 導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。</p>				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月19日

協議会名:	上里町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社協同バス (～R7.3月)	コミュニティバス「こむぎっち号」 運賃:100円(その他割引制度あり) 系統①:中央ルート 系統キロ:往復各15.2km 運行回数:8回/日 系統②:北部ルート(ウニクス循環) 系統キロ:循環18.5km 運行回数:6回/日 系統③北部ルート(ウニクス循環)(1便) 系統キロ:片道11.7km 運行回数:0.5回/日 系統④北部ルート(ウニクス循環)(8便) 系統キロ:片道6.7km 運行回数:0.5回/日 系統⑤南部ルート(ウニクス循環) 系統キロ:循環15.1km 運行回数:7回/日 系統⑥南部ルート(ウニクス循環)(8便) 系統キロ:片道12.1km 運行回数:0.5回/日 系統⑦北部ルート(アグリパーク循環) 系統キロ:循環14.3km 運行回数:7回/日 系統⑧北部ルート(アグリパーク循環)(8便) 系統キロ:片道8.7km 運行回数:0.5回/日 系統⑨南部ルート(アグリパーク循環) 系統キロ:循環18.2km 運行回数:7回/日 系統⑩南部ルート(アグリパーク循環)(8便) 系統キロ:片道12.8km	・高齢者へのコミュニティバスの利用促進支援事業として実施している高齢者無料パスについては、今年度においても発行件数が継続的に増加し、目標値には届かなかったものの、利用者の増加にも繋がった。 ・次期公共交通計画及び次期公共交通形態の運行計画策定に伴う準備作業を進め、令和7年4月1日からの運行体制の見直しが滞りなく進むよう尽力した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 【目標】 ①年間利用者数 11,150人 ②高齢者無料パスの発行件数 300件 【実績】 ①年間利用者数 9,721人 ②高齢者無料パスの発行件数 347件 【分析】 利用者数は目標値の達成に至らなかったが、昨年の同期間(9,531人)よりも約2%増となった。高齢者無料パスについては順調に伸び、目標値を達成することができた。	令和7年3月を以て同運行体制は見直しとなり、令和7年4月より新たな体制での運行を開始した。見直し前の同運行で蓄積された利用状況等のデータについては、新たに開始した運行体制へ活用していく。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月26日

協議会名: 寄居町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社本間タクシー 株式会社桜交通 大信観光花園有限会社	「愛のりタクシー」 運行方式:フルデマンド型乗合 タクシー 運行区域:町内全域 運行日:毎日(12/29～1/3を除く) 運行時間帯:8時～17時 料金:300円/人・回	町民の活動の変化を分析するため、利用者アンケートを実施した。 昨年、デマンド型乗合タクシーの町外便を実証的に運行したが、その結果を踏まえて小川赤十字病院(小川町)への専用便の運行を開始した。	A 計画どおり適切に実施した。	A R7(R6.10～R7.9)事業 ○目標 ・利用者数…46.0人/日 ○達成状況 ・利用者数 47.7人/日 ・相乗り率 56.7% ・収支率 15.5% ・収支差 23,788千円 (運行経費 28,148千円) (収益 4,360千円)	今年度は目標を達成することができた。 人件費や燃料費等の高騰により運行経費が増加したものの、年間利用者数が前年度比約440人の増となり、収支率は前年度より改善した。 今後も利用者数及び収支率を上げるため、制度の積極的な広報活動や利便性向上の案を検討、実施し引き続き利用しやすい環境づくりを行い、効率的な運行を検討していく。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの実施に取り組まれ、利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き、利便性向上を図り、利用者数の増加に努められることを期待するが、乗合タクシーの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。 				